

## ボツワナ

### 主要データ

国名〔英名〕	ボツワナ共和国〔Republic of Botswana〕
面積(km <sup>2</sup> )	581,730
海岸線延長(km)	0
人口(百万人)	2.4
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	4.0
GDP(bUS\$)	18.34
一人当り GDP(US\$)	7,799.91
主要鉱産物：鉱石	ダイヤモンド
主要鉱産物：地金	金
鉱業管轄官庁	鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障省(Ministry of Mineral resources Green technology and Energy security)
鉱業関連政府機関	地質調査所(Department of Geological Survey)
鉱業法	Mines and Minerals Act(1999)
ロイヤルティ	貴石 10%、貴金属 5%、その他鉱物：3%(売上高に対して賦課)
外資法	Foreign Investment Code (2001)
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	環境影響評価法(Environmental Impact Assessment Act(2005))
鉱業公社	Debswana Diamond Company (50%政府出資)、BCL
鉱業活動中の民間企業	Debswana Diamond Company Ltd.、Galene Gold 社

### 1. 鉱業一般のトピックス

2019年の実質 GDP 成長率が+3.0%であったのに対して、コロナ禍の影響で2020年は-8.9%と推定されている<sup>1</sup>。

鉱業は、過去40年間ほど外貨収入の約85%（2020年は88.2%）と多くを占めており、国庫歳入の約3分の1、GDPの約4分の1をも占めている<sup>2</sup>。主にこれらの貢献の多くは、ダイヤモンドである。それ以外の鉱産物としては、過去にニッケル、銅、石炭、ソーダー灰、金、銀、貴石、花崗岩などの生産実績がある。また、未開発だがウラン、鉛・亜鉛のポテンシャルもある。

2020年は、コロナ禍のロックダウンの影響で、ダイヤモンド生産量は減少した。また、ダイヤモンド市場において国際流通が制限を受け、ダイヤモンド原石の取引も厳しい状況であった。2020年後半からは徐々に市場の改善が見られている。

### 2. 鉱業政策のトピックス

政府はダイヤモンドの加工におけるカッティングや研磨といった付加価値向上を目指し、生産のバリューチェーンの多くを取り込むことを促進している。現状、16社あるカッティング会社を24社にまで増やすことを戦略的な目標としている。

2016年まで国営公社BCLがSelebi Phikwe ニッケル・銅鉱山を操業し、ニッケルマット15千t/年、銅マット15千t/年を生産していたが、現在は、閉鎖され清算事業となっている。政府は、2021年2月に、加ジュニアPremium社を同鉱山資産売却の優先交渉者に指名し、2021年9月には資産購入契約が清算人との間で締結された。同社は同鉱山資産の再開発を計画している。

<sup>1</sup> <https://www.afdb.org/en/countries/southern-africa/botswana/botswana-economic-outlook>

<sup>2</sup> <https://www.trade.gov/country-commercial-guides/botswana-mining-minerals>

ボツワナ Mmamabula 炭鉱地域からナミビア Walvis Bay 港までを結ぶ Trans-Kalahari 鉄道(1,500km)の計画について、2010年にボツワナとナミビア間で最初の MOU が締結され、当初、同地域での石炭開発促進を目的として計画がなされた。2019年に入ってボツワナ鉄道とナミビア TransNamib との間で総工費 9.5mUS\$の共同開発事業の MOU が締結された。

### 3. その他トピックス

ナミビアから連続する Kalahari 銅ベルトにて、いくつかのジュニア企業が活動している。米 Cupric Canyon 社は、2021年7月に Khoemacau 銅・銀鉱山の生産を開始した。フル操業に達すれば、銅精鉱 60千t/年、銀精鉱 2.0百万 oz/年を生産する。稼働中のものとしては、国内唯一の銅鉱山となる。

また、豪 Sandfire Resource 社は、同社が開発中の T3 Motheo 銅・銀鉱床の採掘ライセンスを取得し、本格的な建設作業に着手している。2022年初めに採掘を開始し、2023年の精鉱の出荷を予定する。10年間で平均銅量 30千t/年、銀 1.2百万 oz/年程度を生産予定である。

このほか、加ジュニア Giyani Metals 社が南部の K.Hill マンガン鉱山を再開発し、電池メーカー向け高純度電解金属マンガンの生産を目指している。

(2022.02.10 ヨハネスブルグ事務所 原田 武)